

韓国晋州保健大学との学術交流報告

—韓国を訪問して—

田代 隆良¹・花田 裕子¹・野村亜由美¹

保健学研究 19(1): 55-68, 2006

はじめに

韓国の晋州保健大学と本学の学術交流は1995年に始まる。当時の長崎大学医療技術短期大学部（横山哲夫学長）と晋州看護保健専門大学（鄭宗權学長）は、1995年6月2日に教育研究協力に関する協定を締結し、同年、韓国学生が来日、翌年、本学学生が訪韓した。教員の共同研究も行われ、これまで5編の論文発表¹⁻⁵⁾が行われている。両大学の改組に伴い、2002年9月11日、新たに長崎大学（池田高良学長）と晋州保健大学（鄭宗權学長）との学術交流協定が結ばれ、2002年7月に晋州保健大学看護学科の学生17名と教員2人が来日した⁶⁾。翌年は本学が訪韓する予定であったが、テロやSARS問題のため延期されていた。

訪韓準備

2004年7月、韓国晋州保健大学の崔鎔赫先生に連絡をとる。しかし晋州保健大学は既に夏休み（6月下旬～8月下旬）にはいっており、その年の訪韓は無理ということであった。そこで2005年の訪韓にむけて検討した。本学の夏休みは8月、9月なので、両大学とも夏休み期間に訪韓するとすれば8月がいいかと思われたが、2002年来日した韓国学生のホームステイを引き受けた学年（当時1年生）の都合を優先し、2005年7月7日～10日に3泊4日で訪韓する予定にした。

2005年4月、保健学科学生に対し訪韓希望者を募集、最終的に看護学専攻の4年生11人（うち4人は2002年のホスト学生）と2年生3人が訪韓を希望した。共同研究について協議するため看護学専攻の教員3人が同行することになった。旅行の手配は日本旅行社に依頼。長崎～福岡往復は専用バス、福岡～釜山往復はジェットfoil「ビートル」とした（費用は一人32,600円）。釜山から晋州、そして韓国内での移動はすべて晋州保健大学が専用バスを出してくれることになった。また、在韓中、学生はホームステイ、教員はホテルに宿泊することにした。

ホームステイと訪韓中の日程

韓国を訪問した学生と晋州保健大学のホスト学生は表1のとおりである。学生はホスト学生の家で3日間ホー

表1. 韓国を訪問した学生とホスト学生

訪問学生	ホスト学生	
浅田 祥子	金 양이	Kim Yang-i
浅野 佳奈	石 正眞	Seok Jung-jin
井手志穂美	李 珉玲	Lee Min-young
出田 順子	李 靜蘭	Lee Jung-ran
岩隈 三紗	朴 愛羅	Park Aera
大脇真由美	朴 慧林	Park Hae-lim
窪田真梨子	李 知暎	Lee Li-young
中村真紀子	金 미리	Kim Mi-ri
矢島 尚子	河 美貞	Ha Mi-jung
山口 美咲	河 知延	Ha Ji-yon
山口 祐美	金 苑	Kim Won
井上 美和	金 熙永	Kim Hee-young
田中 友紀	河 明姫	Ha Meng-hi
成沢 優子	安 賢貞	An Hyun-jung

ムステイした。訪韓中の日程は、すべて晋州保健大学側が計画してくれた（表2）。

1日目

7月7日（木）早朝6:30に大学病院前に集合。専用バスにて博多に向かう。博多港から約3時間、ジェットfoil「ビートル」の快適な船旅を楽しみ、12:55釜山港に着く。釜山港には晋州保健大学国際観光科の崔鎔赫先生と国際交流担当の崔仁植さんが迎えに来てくれた。釜山市内で昼食後、専用バスで晋州へ。バスの中で学生は今夜歌う予定のボアの曲を皆で練習。

16:00晋州保健大学着。晋州保健大学は夏休み中にも関わらず、多数の学生達が出迎えてくれた。歓迎式では、鄭宗權学長のご挨拶があり、訪問団を代表して、田代が韓国語で挨拶した（前日、挨拶文を図書室の坪井さんに韓国語に訳してもらい、ICレコーダーに録音。長崎を出てからずっと録音を聞いてやっと覚えた）。日韓の学生達もそれぞれ相手国の言葉で短い挨拶をした後、自国語で自己紹介した。通訳は崔鎔赫先生がしてくれた（写真1）。

歓迎式の後、鄭宗權学長自ら大学内の施設を案内してくれた。歓迎晩餐会では学生たちは、練習してきたボアの「No.1」ほかを歌った。次に韓国の学生が歌い、最後は両国の学生と一緒に歌い、楽しく和やかな晩餐会で

1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座

あった。晩餐会終了後解散となったが、学生たちは仲のよいグループでさらに夜の街に出かけ、ショッピング、カフェ、カラオケなどを楽しんだようである。

表2. 韓国訪問日程

日	時	内 容
7月7日 (木)	6:30	長崎発(専用バス)
	9:00	博多着
	10:00	博多港発(ビートル105便)
	12:55	釜山港着(釜山にて昼食)
	14:00	専用バスで晋州へ
	16:00	晋州保健大学着 歓迎式, 自己紹介 大学施設見学
	18:20 20:00	歓迎晩餐会(甲乙ガーデン) 解散(各自ホームステイ宅へ)
7月8日 (金)	9:40	大学集合
	10:00	晋州市庁訪問
	11:00	晋州城・博物館見学
	12:30	昼食
	14:00	慶尚大学病院見学
	15:30	常楽院(老人保健施設)見学
	16:30 17:30	晋陽湖見学(学生), 研究ミーティング(教員) 解散(自由時間, ホームステイ)
7月9日 (土)	9:00	大学集合
	10:30	順天へ移動(専用バス)
	13:00	楽安邑城見学 昼食
	15:00	晋州へ移動(専用バス) 解散(自由時間, ホームステイ)
7月10日 (日)	8:00	大学集合後, 釜山へ(専用バス)
	9:30	釜山観光(竜頭山公園, ジャガルチ市場など)
	12:00	昼食
	13:00	ショッピング
	15:45	釜山港発(ビートル201便)
	18:40	博多港着
	18:50 22:00	専用バスで長崎へ(金立にて夕食) 長崎着・解散

2日目

7月8日(金)は9:40にホスト学生と一緒に大学集合。全員で晋州市庁を訪問した。市庁にて市の観光ビデオを見た後、晋州市の特産品コーナーでショッピングをした。晋州はシルクが特産品で、シルクのスカーフやネクタイなどを買っていた。学生たちは一日ですっかり仲良くなり、ホスト学生は日本の学生にぴたりと寄り添い、付きっきりで案内してくれた。

その後、晋州城へ。ここは16世紀、壬辰倭乱(文禄・慶長の役)で日本軍(豊臣軍)との壮絶な戦いがあったところで、7万人の朝鮮人が戦死したという。この時日本軍の大將を道連れに投身した女性論介(ノンゲ)は韓国の英雄であり、晋州市のキャラクターとなっている。つづいて訪れた晋州博物館は壬辰倭乱専門の博物館で、壬辰倭乱に関する資料が展示され、日本軍を撃退するアニメが放映されていた。学生たちは、日本が朝鮮に侵攻した歴史的事実を初めて実感し、とまどったようであったが、韓国の学生たちはたいして気にとめていない様子で、仲良くアニメを見ていた。

ホスト学生は全員看護学科の学生だが、この日は国際観光科で日本語を学んでいる学生数名も来てくれた。日本人の大野恵先生が日本語を教えておられるが、日本人と話すのは初めてということで、学生たちははにかみながらも日本語で自己紹介し、皆で歓迎の歌を歌ってくれた。

午後からは、晋州保健大学の看護学生が実習を行っている慶尚大学病院を見学した。慶尚大学病院はベッド数約650床の総合病院で、病室は日本とあまり変わらないようであったが、最上階に健康診断(人間ドック)のためのフロアがあった。ここのスタッフのユニフォームは白衣ではなく、ホテルのような清潔な雰囲気であった。

その後、常楽院という老人保健施設を見学。韓国の人もカラオケが大好きとみえて、次々と歌っておられた。学生たちは最初静かに聴いていたが、歌っていた方からリクエストされ、今度は日韓学生たちの大合唱となった。

教員はここで学生と別れ、晋州保健大学看護学科の先生たちと共同研究に関するミーティングを行った(後述)。

3日目

7月9日(土)は、全羅南道順天市の楽安邑城(ナガヌブソン)民俗村を訪れた。ここは14世紀に築かれた城壁に囲まれた村で、村全体が史跡に指定されており、朝鮮王朝時代の城や客舎、藁葺きを含む家屋が保存されている。城壁は日本の海賊(倭寇)から、村を守るために築かれたという。今も100世帯ほどが実際に生活しており、ドラマ「宮廷女官チャングムの誓い」のロケも行われたそうだ。この日はあいにくの曇り空で、雨が降ったりやんだりだったので、早めに晋州へ戻って15時頃解散。学生たちは晋州市内にショッピングに出かけた。

4日目

7月10日(日)、いよいよ最終日である。学生たちは



写真1. 韓国晋州保健大学訪問記念写真

ホスト学生とともに8:00に大学に集合。教職員の方も見送りに来てくれた。韓国の人たちと別れを惜しみ、バスに乗ったが、ホスト学生はほとんどが釜山までついてきてくれた。釜山で竜頭山公園、ジャガルチ市場などを観光し、最後のショッピングを楽しんだ。釜山港で別れる時、学生たちは抱き合い、涙を流すものもいて、感動的であった。

学術交流

1. 教員の共同研究

長崎大学からは6つの共同研究希望(表3)があり、訪韓前に研究計画書を晋州保健大学看護学科へ提出した。2日目の午後から、滞在先のホテルで晋州保健大学看護学科の先生と協議を行った。晋州保健大学の先生は、「ターミナル期の看護」と「児童虐待」の研究に強い関心があり、人工関節に関する研究を行っている先生が現在はいないということであった。今後の共同研究の可能性があるテーマとして「ターミナル期の患者の家族へのケア」「児童虐待と看護」を中心にディスカッションを行った。韓国語-日本語通訳と専門分野に関しては、つたない英語でのディスカッションであったが、児童虐待に関しては、韓国は取り組みが遅れているが潜在的な虐待被害児童は多くいるとのことであった。韓国には、日本の児童センターや児童相談所に該当する機関がないと聞き、驚きと共に家族観やジェンダーなど文化差の影響もあることが理解でき、有意義な時間となった。ターミナル期の看護にも強い関心を示されて、特に家族へのケアの必要性についてディスカッションを行った。韓国では家族の絆が非常に強く、入院中も家族の付き添いが慣例となっているとのことであった。しかし、高齢化や核家族化は日本同様に進んでいるため家族の負担が大きいことも問題となってきているということであった。日本と韓国の宗教・文化の違いもあり、ターミナル期の看護で重要なスピリチュアルなケアに今後取り組んでみたいという共通認識をもつことができた。帰国後、共同研究のディスカッションに参加していた小児看護学の助教授より、本学小児看護学の宮下教授の研究テーマについて

問い合わせがあり、宮下教授との連絡調整を3度行った。今回は、研究テーマにはあがっていなかったが、大学病院見学で、ヘルスプロモーション部門での看護の役割やケア環境、病棟の病床数に対する看護師数がかかなり少なく、看護基準の日本との較差に少なからず驚かされた。看護師のメンタルヘルスやストレスに関する国際研究テーマとして興味深いのではないだろうか。

2. 学生の卒業研究

本学の学生が卒業研究のテーマに希望していた「日韓看護学生の死生観の比較」は鄭宗權学長の承認が得られ、アンケートの韓国語訳を国際観光科の崔鎔赫先生、韓国学生に対するアンケート調査を看護学科長の白明和先生が担当してくれることとなった。

後日、韓国の看護学生191人からアンケート調査の回答が得られ、研究結果は平成17年度卒業研究論文集にまとめ、その後、保健学研究に投稿した^{7,8)}。

3. 韓国からの調査協力依頼

国際観光科の崔鎔赫先生から「日本・韓国・中国の生活基礎漢字の規範化」に関するアンケート調査依頼があった。帰国後、長崎大学医学部の保健学科と医学科の学生約500人にアンケート調査を実施し、回収した調査票を崔鎔赫先生に送った。

韓国の食文化

野村亜由美

1. 食は百薬の長

韓国に到着して最初に頂いたのが、サムゲダン(参鶏湯)でした。一人用の釜に若鶏が丸々一匹。若鶏のお腹の中には炊いたもち米や高麗人参、ナツメ、ニンニク、栗が入っています。本場で初めて頂く韓国料理にどう手をつければよいのか考えていると、ホストの先生が「混ぜてください」とひと言。混ぜる?と疑問に思いながら、お箸で若鶏を突くと身がほろほろとほぐれ、良い感じにスープと混ぜり合いました。

もともと韓国は日本と同じ「発酵」の文化を持ってい

表3. 長崎大学からの共同研究希望テーマ

研究テーマ	担当研究者
1. がん性疼痛に関する看護師の知識の現況-日本と韓国の比較-	安藤(成人看護学)
2. がん性疼痛マネジメントに対する看護師の意識調査-日本と韓国の比較-	安藤(成人看護学)
3. ターミナル期のがん患者の家族のニーズ-韓国と日本の比較	郡司(成人看護学)
4. 大腿骨頸部骨折患者をもつ家族への退院後の支援に関する日韓の比較調査	岡田(成人看護学)
5. 児童虐待とケアに関する国際調査	花田(精神看護学)
6. 日韓看護大学生の死生観の比較	田代(基礎看護学)

ます。日本でも肉・魚類や野菜を保存食として発酵させる地域があるように、同じ文化圏に属する韓国でも発酵食品は数多くあります。一番印象的なのはキムチですが、そのほかに基本調味料としてみそやしょうゆも使われます。これは自然の恵みである発酵の力を体内に取り入れることによって、「食」を鋭気を養う「薬」とする考えからきているのかもしれませんが。

一般的に韓国料理と言えば「辛い」というイメージがありますが、このサムゲダンスープに殆ど味がついていなかったのは、一緒に出された副菜のキムチや数々の調味料を使って、オリジナルのスープを作るためではないでしょうか。つまり、自分の好みの味を調合するという目的だけでなく、自分の体調に合わせて食材を吟味するという古い伝統の名残ではないかと思われま

2. 韓国は「混ぜる」文化

日本食には見て楽しみ、味わって楽しむという文化があります。韓国も同様に色彩豊かな盛り付けと、深い味わいを楽しむ食習慣があります。ただ日本と違うのは、一つのお皿（器）に一種類の食材を盛り付けるということ。そのため韓国料理を頂くときは数十種類のお皿がところ狭しと並べられ、中にはお皿同士が重なっている光景も目にしました。

そしてもう一つ日本とすこし違っていたのが、「混ぜる」という行為です。日本でも混ぜご飯や玉子かけご飯のようなものがありますが、韓国ではただ混ぜるだけではなく、そこに「捏ねる」というひと手間も加えられます。韓国の方々が「混ぜて」、「捏ねる」理由は、すでに混ぜ合わさった味を、口の中でより長く楽しむためだそうです。そしてもうひとつ細かいことですが、例えば、日本ではご飯に汁をかけるということが多いようですが、韓国では汁物にご飯を「混ぜる」ことが多かったように思います。そのため、食卓には必ず金属製の箸のほかにもスプーンが用意されていました。これらは自分から向かって右側に縦に置かれます。日本食の場合横向きにして置くのに、なぜ縦に置かれるのか最後まで理由は分かりませんでした。

3. 食の作法と儒教

韓国滞在中は、本当に美味しいものばかり頂きました。なかでも「宮廷料理」は絶品でした。もちろん一流の料亭といった趣のあるお店での会食です。先にも書きましたが、ここでも食材が乗ったお皿がテーブルに乗り切れないくらい次から次へと出てきます。

韓国流の作法と言えば、食器は持ち上げず置いたまま箸とスプーンで頂きます。そして食事をするときは、目上の人より先に箸をつけてはいけないというのがルールです。お酌をするときにもルールがあります。まず基本的に女性がお酌することはタブーだそうです。しかしホスト側の先生方（女性）は、私たちにお酌を下さ

いました。その際に気をつけなければならないことは、お酌をする人もされる人も、コップを両手で支えるのではなく、必ず左手を右手の肘に添えることです。見慣れない光景でしたが、その手の添え方に、何とも優雅で慎み深い印象を持ちました。それもそのはず、ここ韓国は儒教の影響を色濃く残す国。目上の人あるいは客人に対する礼儀は厳守されます。最近の若者の間では儒教の精神も薄れつつあると言われるものの、やはり食事の礼儀は厳しいようです。

また韓国では、出されたものを全てを食べつくすことは食事が足りなかったということの意味し、ホスト側のおもてなしに対するマナー違反になるそうです。これなどは日本とは全く逆の発想で、どこで箸を止めればいいのか正直迷いました。

4. 医食同源

「宮廷料理」と言えば、NHK総合テレビで放送されていた「宮廷女官チャングムの誓い」で一躍有名になりました。主人公の医女チャングムは16世紀初頭の朝鮮王朝時代に実在した人物だそうです。彼女はもともと宮廷料理人として働いていましたが、後に医学を学び王の主治医という地位まで登りつめました。このことから韓国には「医」と「食」が密接に関係していることを窺わせます。

「宮廷料理」の真髄は「五味五色」にあるといわれます。五味とは「塩・甘・辛・酸・苦」の五つの味を指します。また五色とは「青・赤・黄・白・黒」のことを指します。これらは単に味覚や色彩といったことに止まらず、栄養のバランスを取ることで身体の調整を図る教えとして古くから韓国に伝わるものだそうです。この教えのルーツは、古代中国の戦国時代以降に盛んになった五行思想に基づくものです。五行思想によれば、人間の「病気」は五臓腑の機能がバランスを崩したものであり、このバランスを五行間の関係性の法則に則って補正されるわけです（表4）。

近年の韓国も日本と同様、生活スタイルや食生活が欧米化され、伝統的な習慣が薄れつつあると言われてはいますが、日本でも「食べ合わせ」の習慣が残っているように、韓国でも自分の健康状態に合わせた「五行思想」の食習慣が受け継がれていることは嬉しく思います。

5. 食の恵み

韓国での最終日、すこし大きめのスーパーマーケットに全員で出かけました。ここでは食料品以外に、雑貨、電化製品、衣類などを販売していました。バスを降りて私が真っ先に向かったのは地下1階にある食料品売り場です。私のお目当ては、韓国ですっかり虜になった「コチュジャン」と「チヂミの素」、そして「五味茶（オミジャ）」です。

「五味茶（オミジャ）」は五味子と呼ばれる実を干して

表 4. 五行思想

五行	木	火	土	金	水
五色	青	赤	黄	白	黒
五味	酸	苦	甘	辛	塩
五食	緑野菜	唐辛子	卵黄	卵白	海苔
五時	春	夏	土用	秋	冬
五臓腑	肝・胆	心・小腸	脾・胃	肺・大腸	腎・膀胱
五感	目	耳	鼻	口	皮膚
五方	東	南	中央	西	北

乾燥させ、煮出して作る赤いきれいな色（ワインのロゼのような感じ）をしたお茶です。実際に飲むとすこし漢方の味がしますが、五味茶と言われるだけあって、種子の方は「酸味・甘味・苦味・辛味・塩味」の五つの味がするそうです。五味子はアジア東北部の比較的寒冷な山地に生えるモクレン科の植物で、日本にも自生しているようですが、その実を食すという話はあまり聞いたことがありません。

この五味茶はなかなかの優れもので、韓国では古くから滋養強壮剤として好まれ、肺機能の保護（去痰、鎮咳）、扁桃腺や気管支の病気に効果があるとされています。韓国訪問したのがちょうど夏の時期で、夏バテ・風邪予防にと帰国後も愛飲していました。効果がどの程度あったか不明ですが、この年は元気に夏を乗り切れたように思います。「鯛の頭も信心から」ということでしょう。

ちなみに「コチュジャン」、「チヂミの素」、「五味茶」は私が韓国を訪問している間、留守中にご迷惑をお掛けした同僚の先生方にお土産として持ち帰り、なかなかの好評を博しました。

食事中の学生さんたちの楽しそうな笑い声、ホスト側の大学の先生方との有意義な会食を通して、「食」は文化を超えて万人に笑顔をもたらす“恵み”なのだと心から感じました。

学生の感想文

1. 晋州保健大学訪問に参加して

看護学専攻4年 浅田 祥子

3年前、大学1年生のとき韓国からの学生を受け入れ、私も一度韓国に行って、彼女達の勉強している所、生活しているところを見てみたいと思っていました。3年前も彼女達と4日間過ごして様々な話をし、韓国の文化についても聞くことができましたが、今回晋州保健大学や学生の自宅に伺ってそのとき以上に様々なものを見て聞いて感じる事ができました。

私のホストは私より2歳年上のドライブ好きで勉強も頑張る素敵な女の子でした。そしてその子の家族も本当に素敵な家族でした。お家には家族全員でとった大きな

額縁入りの写真が飾ってあり、家族の結びつきが強いのだと感じました。お父さんは一家の大黒柱でどんと構えている印象があります。私が初めてホストの自宅に伺ったときにたまたまお父さんと帰りが一緒になって家の前で初めて会いました。私が慣れない韓国語で挨拶すると、おおおおと言いながら笑顔で握手して迎えてくれました。それからはほとんどお話する機会がありませんでしたが、見ず知らずの日本人を快く受け入れていただいて非常に感謝しています。お母さんはいつも私を気にかけてくださって、家族を支える縁の下の力持ちでした。毎朝おいしい朝ご飯を用意してくださったり、本当の娘のように私のこともかわいがってくださいました。ホストのお姉さんは銀行員ですが、ユーモアたっぷりて明日は何時に家を出なければいけないから何時に起きて朝ご飯を食べるのよとか、キムチは必ず冷蔵保存してね、冷凍はだめよなど英語で一つ一つ丁寧に説明してくれました。ホストもお姉さんのことを「彼女はいつも私のことに何々といつも口を出してきて面白い人なのよ」と話していました。ホストの弟は小学校の先生を目指す私と同じ年の大学生でした。朝早く出て夜遅く帰宅するため彼とは2日目の夜に初めて会いました。お姉さんやホストとは違ってシャイボーイで挨拶をしたあとすぐに引っ込んでしまいました。私が日本へ帰る日は眠い目をこすりながら私の荷物を車まで運んでくれ、お母さん、お姉さんと共に車を見送ってくれました。こんな素敵な家族を見て、私も自分の家族に会いたくなり、またもっと家族を大切にしなければいけないと感じました。

ホストは自分のホームページを持っていて2日目の夜少し時間があつたので私にホームページを見せてくれました。韓国へ行って思ったことですが、韓国の人は自分の写真をよくとります。日本であれば珍しい場所に行ったから記念にとすることはあっても普段に自分がメインで写真を撮るということはほとんどありません。私のホストも携帯電話で自分ひとりや友達と一緒に普段の写真撮っていました。ホームページも自分の写真コーナー、晋州の大学の友達のコーナー、釜山の友達のコーナーなどたくさんの写真を公開していました。どの写真もポー

ズが決まっています。見ているだけですごく楽しくなりました。ひとつひとつの写真についてホストが説明をしてくれてたくさんの友達のつながりがあることや、思いの強さが伝わってきました。私はどちらかというと友達が多い方でもないし、ものすごく仲良くしている友人がいるわけでもありません。彼女の生活、また人との付き合い方を見て、もっともっと今を大事にして人とのつながりを重要視するべきだと思いました。

韓国へ行って見て、多少の違いはありますが、ほとんど日本と変わらないと思いました。しかし、韓国の学生は非常に勉強熱心なこと、家族をととても大事にすること、年長の人を敬うことは私も見習わなくてはいけないと感じました。日本で失われつつあるものが韓国にはまだ残っていました。韓国はぐんぐん力をつけている国だと思いますし、韓国の学生を見ていると韓国の将来は安泰だと感じます。日本がだめなわけではないけれど、日本の良さを残しつつ、持っている力をもっともっと発揮して努力を惜しんではられません。韓国の学生たちを見て、私もこれからの日本の医療を背負って立つものとして自己研鑽に励みたいと改めて思いました。国は違っていますが、メールや手紙を通して今後も彼女たちとつながりを持っていけたらいいなと思います。

2. 韓国晋州保健大学を訪れて

看護学専攻4年 浅野 佳奈

今回、晋州保健大学との交流として韓国を訪れ、晋州の大学生と一緒に観光したり自宅にホームステイしたりして、普段の観光とは違い、より深く韓国の文化に触れることができ、とてもよい経験となった。韓国に行くまでは、楽しみや期待もあったが、反対に、言葉が通じなかったらどうしようとか、食事があわなかったらどうしようなどといった不安もあった。しかし、私たちのバスが大学に到着したとき、大学の玄関で笑顔で迎えてくれ、とても暖かい雰囲気とその不安も一気に吹っ飛んだ気がした。

観光としては、市庁や博物館、お城や村などを見学したが、晋州は日本との歴史も深く、昔は対立していたという事実も韓国の学生と一緒に受け止めることができた。晋州大学内も見学することができ、エステコースや美容師コースの学科もあり、看護学生も230人ほどいるということで、学生の多さに驚いた。病院見学もさせていただいたが、健康診査を行うところはホテルのような設備で、サービスも充実しており、病院ということを感じさせない雰囲気で、素直にすごいなあと感じた。日本にもこんな空間があればいいのと思った。

このように、いろいろな体験をさせていただいたが、特に私が一番心に残ったことは、やはりホストと過ごした時間である。会話は英語だったが、通じないときでもボディランゲージで十分コミュニケーションが出来たことが驚きだった。4日間の中でホストの学生とはいろい

ろな話をすることができた。特に、最後の夜に二人でカフェに行って将来の話や看護への思いなど4時間ずっと話し続けたことがとても楽しく、忘れられない思い出となった。また、バスでの観光が終わってからの自由時間に、大学に戻ってホストの友達と教室で話したり、ご飯を一緒に食べに行ったり、買い物をしたりした。みんな私たちのことをとても歓迎してくれ、いろいろなところに連れて行ってくれたので本当に嬉しかった。また、家庭では、家族と一緒に食事したり、テレビを見たりすることもできた。私がホームステイをさせていただいた家の両親は、いつも笑顔でとても明るく、家族どうしも仲がよかったので家の中でも、とても過ごしやすかった。

4日間という短い期間だったが、とても濃い4日間だったと思う。最終日のお別れの時は、ほとんどの人が泣いていたが、みんなホストと本当に心が通じ合えたのではないかと思う。今回の訪問を通して、たくさんの人と出会い、たくさんの経験ができ、今回韓国に行って本当によかったと感じた。今後もこのような交流を続けていってほしいと思う。

3. 韓国に訪問して

看護学専攻4年 井手志穂美

私は、今回が2回目の韓国訪問だった。前回の訪問は、観光・買い物が中心で、現地の人と関わることはほとんどなかった。その時は、初めての訪問で、お店などを見るだけで楽しかった。今回の訪問は、ホームステイをさせてもらったりして、現地の学生との交流があったり、病院や大学を見学させてもらったりして、前回とは違った面白さがあり、本当に有意義な4日間だった。

今回の訪問で、日本人としての自分、外国人としての自分、看護学生としての自分…など、様々なことを感じた。近い国だからこそ、似ているとこともあったし、全く違うこともあったりして、認め合わなければいけないことも多かった気がする。話の中で多くのことを楽しく知ることができた。すごく情けなく思ったことは、歴史上、日本と韓国の間で起こったことを知らなかったことだ。晋州城のこと、順天の村のこと、何となく名前を聞いたことがある程度でしかなかった。それは、過去のことではあるが、決して忘れていいものではない。日本側、韓国側でいろいろと意見が言われていると思うが、歴史的な事実をしっかりと受け止めることが私にはかけていたと感じた。ただ、日本が悲しい歴史を作ったということに対して罪悪感で目を背け、日本人は韓国の人たちとは仲良くなれないのではないかと感じていた。しかし、本当は過去を忘れてはいけないし、どうして起こったのか、歴史背景などきちんと知ること抜きでは、これからの本当の関係は築けないことなのかもしれないと感じた。そういった自分たちの歴史をきちんと知り、受け止めることもとても重要なことであると感じた。

また、すごく印象的だったのが、ホストをはじめ、韓

国の人たちがとても親切だったことだ。会ったその日から、ドライブに連れて行ってくれたり、買い物に連れて行ってくれたりした。すごく気配りが上手で、優しく、本当に楽しかった。もっと英語や韓国語を勉強しておけばよかったと思ったが、そんな中でも4日間一緒にいさせてもらって、徐々にお互いのことを話せるようになった気がした。もっともっといろいろなことを話せたらよかったと思うが…。本当に貴重な体験をさせてもらったと思う。

大学では、多くの人が夜遅くまで残って勉強をしており、韓国の人はずごいな、本当に自分も頑張らなくてはいけないと感じた。今回の訪問では、単に楽しさだけではなく、いろいろなことを学べた気がする。これからもこういった交流がぜひ続いてほしいと思うし、今回の交流に参加できたことに感謝したいと思う。韓国のホスト、ホストの家族、先生方など、本当にありがとうございます。

4. 晋州保健大学の学生宅でのホームステイを経験して 看護学専攻4年 出田 順子

韓国旅行は過去に2回の経験があり、実は今回もその時と同じような気軽な旅行気分での訪問を決めた。しかし晋州保健大学に到着すると、大々的な歓迎会が催され、自分は大学を代表してきた訪問者であり、日韓交流の一端を担っているのだと身が引き締まった。

一日目：大学到着、歓迎式、大学施設見学、歓迎晩餐会、解散、韓国学生（ホストのクラスメイトを交えて）カフェで話、ホームステイ先の両親に挨拶、ホームステイ

晩餐会終了後、個々のホストとの自由時間となり、私は一旦荷物をチャンランの家に置いてから再び晋州保健大学に戻った。チャンランのクラスに行くところには40人ほどの学生がいて、皆が勉強をしていた。今は夏休みなのだが、クラスで毎日自主的にテスト範囲を決めて小テストを行っているという。チャンラン自身毎日8:00~22:00の間学校で勉強をしているということであった。その後、彼女の友達と一緒にコンビニで話し（彼氏の話、勉強の話、大学の話など）、ホームステイ先に戻った。

二日目：市庁訪問、晋州城・博物館見学、慶尚大学病院見学、常楽院・晋陽湖見学、解散、ダウンタウン+市場でショッピング、カフェで話、ホームステイ

今回の訪問、見学では過去の日本の侵略について改めて考えなおす機会となった。晋州のマスコットであるノンゲは、過去に日本の将軍と共に河に身を投げた人物である。マスコットというくらいなので、晋州のあらゆる所でノンゲを目にし、韓国ではこんなに身近に過去の侵略の歴史を感じるものがあるということに驚き、日本人と韓国人の歴史認識の差を身にしみて感じた。慶尚大学病院、常楽院の施設設備は日本と大きな差があるように感じられなかったが、常楽院で韓国の学生と一緒に歌を歌い、文化・芸術は国境を越えることを体感できた。

解散後ダウンタウン+市場でのショッピング+カフェで韓国の学生と様々なこと（物価の話、血液型の話など）を話したが、日本・韓国という国の違いはあっても、同年代の人達の興味や考えは同じだなと感じた。

三日目：樂安邑城見学、ダウンタウンでショッピング、カフェで話し、E-マートで買い物、バーで話し、ホームステイ

今日見学した樂安邑城も日本侵略の足跡であった。今日施設をガイドしてくれた方は10年前に韓国に嫁いできたという日本人の方だったが、彼女がしきりに「韓国と日本の間には心の痛む歴史があるということだけは知っておいて下さいね」とおっしゃっていたのがこころに残る。

解散後のショッピング、カフェ・バーでの話しでは、将来の目標、韓国の給料、日本・韓国の国のことなどを話した。韓国では、人気の三大職業は、教師・公務員・看護師で、病院によって給料は3倍近く！の差があるらしい。また、韓国人は外国で勉強・就労するためにビザをとるのはかなり難しいらしい。韓国の学生が「私たちの国は世界的な信用がまだ低いから」と自ら言っているの聞き、日本という恵まれた環境で育ったという事実に変更が気づかされた。

四日目：釜山へ移動、釜山観光、釜山港出発、日本到着

チャンランは、この日の午後からチェジュ島へ卒業旅行することになっていたので午前中で別れることになった。「本当にありがとう……。また会いましょう……」

今回の訪問で、①歴史認識の重要性、②外国大学生の勤勉さ、③語学学習の必要性、④自国の文化・芸術の素晴らしさ、⑤自分の恵まれている環境、を身にしみて体感できた。もし、私がかもう一度今回と同じ訪問を行うとするならば、もっと日韓の歴史を勉強し、もっと英語・韓国語の勉強をして、日本の文化をひとつでも身につけてから臨むだろう。

前述した通り、安易な考えで今回の訪問を決めたにもかかわらず、ふつうの旅行では決して体験できない韓国の学生の日常を体感出来、自分がこの訪問団の一員になった幸運に心から感謝しています。後輩の皆さん、もし来年・再来年にこのような機会があれば、ぜひぜひ参加して下さい。言葉では決して言い尽くせない貴重な体験が出来ますよ。

最後になりましたが、今回の訪問のために様々な努力をしてくださった両国の先生方、関係者の方、ホームステイの受け入れをして下さった韓国の学生とご家族、晋州の皆さん本当にありがとうございました。

5. 晋州大学を訪問して

看護学専攻4年 岩隈 三紗

今回韓国の大学を訪問する機会に参加できてとても楽しく、勉強になる4日間を過ごすことができました。はじめ

はホームステイということで、コミュニケーションをとれるか不安でいっぱいだった。英語も韓国語も話せないし、どうなるのか毎日心配をしていた。実際にホストの韓国人学生と会うと、顔をあわせるとすぐに笑顔で私を迎え入れてくれていて、なんとかやっていけそうな気持ちになった。私のホストは山の奥に家があり、バスと車を使って家から学校まで1時間弱かかる場所に住んでいた。お父さんの仕事は果樹園農家で、柿を作っている。毎日5時半に起きて、朝は家族で果樹園の山を散歩し、朝ごはんを食べるといった生活だった。とても気持ちいい朝で、しかも家族みんなで朝の散歩をするという時間が日本ではなかったのだから、家族の時間をとても大切にしているのだなと感じた。両親、姉、ホストの4人が家に住んでいて、弟は学校の寮にいたということだった。お姉さんは少し日本語を話すことができたので、ホストとお姉さんを通して両親と話をする形になった。また、お母さんのお姉さんとその旦那さんにとってもよくしてもらって、3日目の夜ご飯に焼肉に連れて行ってもらったり、お土産をもらったりした。そのおじさんは、30年前に日本に半年ほどいて、そのときに、お金もなくあまり食べるものもなかったが、隣の日本人の夫婦にとってもよくしてもらったので私にも何かしたいのだとあって、すごくよくしてもらった。おじさんが生きてきた中で、日本人に親切にされたという歴史が、めぐりめぐって今私にこんな形で返ってきていると思うと、人と人との関係はそのときの出会いだけでなく、その人の生きてきた歴史も関わってくるのだと気づいた。まして、国際交流となると、日本人という大きな枠組みになり、その国のイメージというのは大切になってくると思う。

今回のホームステイで私は韓国の家族にとっても親切にしてもらったことで、韓国人に良いイメージを持つことができたし、そのことによって、これから韓国人に出会うことがあれば、絶対に親切にしたいと思うし、これからももっともっと出会いたいなと思っている。今回の訪問で、お互いに言葉がなかなか通じない中で、同じ家で寝たり、同じご飯を食べたりする貴重な体験をすることができて、自分としてもよい経験になったし、次回何かまた晋州大学の学生と交流があれば、後輩に是非行くように勧めたいし、もっと頻回の交流になればいいと思う。

また、先生との旅行という点でもとても楽しく過ごすことができたように思う。なかなか授業以外で先生方と関わることがないので、このような機会でも、先生方と学生が同じ時間を過ごし、同じ体験をすることで、より近い存在に感じることができる。本当に今回の晋州大学訪問に参加してよかったと感じている。

6. 韓国研修感想文

看護学専攻4年 大脇真由美

私は今回の韓国研修でホストファミリーとして私を受け入れてくれたパートナーとその家族、パートナーの友

達や私達を案内しながら日本語訳をしてくださった先生など、いろいろな人達にとっても親切にしてくださいました。私はテレビなどの報道で領土問題や教科書問題などの歴史的な問題に関連した反日感情が韓国では強いということを見聞きしていたので、韓国の方々の反応が少し気になっていましたが、私が出会った人達はみんなとても友好的で、驚きました。私達は2日目の観光で晋州城に行きましたが、そこで初めて豊臣秀吉が率いる軍が攻め入った場所が晋州であるということを知りました。博物館でその戦いの再現映像を見ましたが、とても迫力がありその戦いの恐ろしさを強く感じました。それと同時に、そのような戦いがあった土地であるにも関わらず、このように友好的で親切な対応をしてくださる韓国の方々に対して私はさらに驚きと感謝の気持ちが大きくなりました。

もう一つこの韓国研修で印象的だったのは「日本との類似」です。パートナーである韓国の学生と4日間ずっと一緒に過ごしましたが、携帯電話で話す姿やパソコンを使う姿もファッションやメイクも友達と遊んでいる雰囲気も私達日本の学生と何ら変わりなく、また毎日出される食事もう辛いということ以外は日本のものと非常によく似ていて、とても馴染みやすい環境でした。そのため海外に行くと感じる“ガイコクジン”という感覚も、韓国の学生達と話しているときは全くといっていいほど感じず、純粋に友達としての感覚で関わることができました。たった4日間という短い期間であったにも関わらずそのような良い関係を築くことができたことがとても嬉しく、また共通点があるということはお互いの理解を深める大きな鍵となるということを実感しました。

そして、私は今回の交流を通して“コミュニケーション”について改めて学ぶことができました。友好的な関わりを自分から心がけること、またその関わりを持って相手との理解を深めようとする中で、相手との関係はよりよいものになるということの実践を見せてもらったような気がします。それらは基本といえば基本と思いますが、初対面の人とのコミュニケーションが苦手な私にとってはなかなか難しいもので、今回の経験で良いお手本ができたので今後十分に活かせると思います。また、特に看護職においてコミュニケーションは重要なスキルの一つであるので、そういった面でも今後活かせる良い学びができたと思います。

最後に、今回の研修を振り返って何より思うことは、韓国の学生との交流は非常に楽しかったということです。最初はホームステイという環境に緊張してホテルに泊まる方がいいなどと思っていましたが、ホームステイだからこそ普通の観光では味わえない貴重な経験ができ、韓国の友達とも楽しい時間が過ごせたと思います。一緒に過ごしいろいろなことを教えてくれたパートナーをはじめ、快く受け入れてくださったホストファミリー、引率してくださった先生方、送り出してくれた両親に感謝したいと思います。

7. 晋州保健大学を訪問して

看護学専攻4年 窪田真梨子

今回の晋州保健大学訪問で、私は初めての韓国に大きな期待を抱いてでかけた。4日間の様々な晋州の見学や観光は、予想以上に楽しく、充実した時間を過ごすことができた。また、晋州保健大学の看護学生がとても歓迎してくれて、みんな親切に韓国の様々なことを教えてくれた。私のホストのジャンは、日本に興味があったので、自分のことや日本のことを教えたいと思い、慣れない英語で一生懸命話した。ジャンも英語が苦手と言っていたので、お互い文法もめちゃくちゃだったけれど、伝わらないときは単語を置き換えながら話すことで、コミュニケーションをとることができた。ジャンは日本語を勉強したことがあり、日本語で伝わることも多かった。コミュニケーションは、話したい、伝えたいという気持ちを持てば、言葉の知識が低くても、なんとかなるものだと感じた。私たちの会話は、日本語や英語、韓国語が混じっていて、最初は伝えるのが困難だったけれど、日に日にスムーズにコミュニケーションがとれるようになっていったと思う。

晋州の見学や観光においては、晋州の歴史や文化を学ぶこともでき、日本との関係など考えさせられた。晋州は、博物館など公的な建物はすべてきれいで、公園などの広場や人々が憩う場所などの環境整備がしっかりされていると感じた。

また、晋州保健大学の見学では、「保健大学」の中に、美容の学部があることに驚いた。そして、施設もきれいで、充実しており、自分のやりたいことを学ぶのによい環境であると感じた。また、晋州保健大学の看護学実習先の病院である慶尚大学病院では、健康診断を行う場所でのサービスを重視した環境作りとして、ナースは他の階と違うユニホームで、ホテルのロビーのような待合室など、驚きの対策が行われていた。しかし、このようなサービスは健康な人々が利用しやすく、よい方法であると思った。しかし、他の病棟のナースの人数が日本に比べてかなり少ないことも衝撃であった。このような看護体制で、質の高い看護は提供できるのであろうかと疑問を感じたが、勤務体制などが日本と異なっており、同じ「看護」であっても、やはり、国によって違いがあるのだろうと思った。

自由時間は、ダウンタウンや市場でのショッピングやごはん、カフェでのおしゃべりなどとても楽しい時間を過ごした。ショッピングはオススメの場所や安くてよい店を教えてもらったりして、やはり、地元の子と一緒にの方が効率よく、無駄のない買い物ができるなと思った。歩き回って疲れたけれど、料理もおいしかったし、よい経験がたくさんできたし、4日間本当に楽しかった。

初めての韓国で、しかもホームステイで最初はどうなることかと思ったけれど、参加してよかったと思う。このような経験は、なかなかできないので、今後も続けて

いってほしいと思う。本当にありがとうございました。

8. 晋州保健大学研修旅行に参加して

看護学専攻4年 中村真紀子

高校の修学旅行以来の海外旅行とあって、行く前は少し緊張していたが、晋州保健大学に着きバスを降りると、教室の窓や屋上からたくさんの学生が手を振って歓迎してくれ、嬉しかった。晋州保健大学は学部がとても多く、看護系大学と美容専門学校が一緒になったような学校だった。演習の物品も新しいものに整備されており、看護の分野に限らず、学ぶことが楽しそうだなという印象だった。ホストの学生が紹介されると、少し緊張したが、写真撮影のとき、向こうから積極的に話しかけてくれ、すぐに仲良くなることができた。私のホストの学生はキムミリというとても明るいかわいい子だった。私は挨拶程度しか韓国語ができなかったが、ミリは高校で日本語の授業を選択したそうで、日本語がとても上手く、私たちは英語と日本語を混ぜながら、楽にコミュニケーションを取ることができた。歓迎会のあと、何ペアかでコーヒーショップに行き、日本の学生が持ってきた韓国語の本を使いながら、他の韓国の学生ともたくさん話し、とても楽しい時間を過ごすことができた。

次の日の朝、夜仕事でいなかったミリのお父さんとお兄さんと会えた。韓国語はよくわからなかったが、ミリが日本語や英語に訳してくれたので、お兄さんの携帯で写真を撮ったりしながら、楽しく話すことができた。韓国は食事もとてもおいしいし、ファッションなども日本と似ているので、日本みたいで過ごしやすいなと思っていたが、バスの運転の荒さにはかなり驚いた。日本なら、お客さんが乗って、座ったり手すりにつかまったりしたのを確認してから発車するのに、韓国は乗ってお金を入れたらいきなり発車して、転びそうになってしまった。病院見学では、健康診断のフロアがまるでホテルのようなサービスの質の高さで、また、バスの中でミリと話すとき、晋州保健大学の看護学生の実習の形態が私たちとは違うことなど知ることができた。夕食は4ペアで食べに行った。8人でお腹いっぱい食べたのに、4000円程度しかかからず、日本の学生はすごい、すごい！と感動してしまった。その夜は晋州市内で買い物をして、マニキュアをミリにプレゼントしてもらった。少し早めに家に帰り、お母さんにチョコゴリを着せてもらい、とても嬉しかった。

3日目は、いつもの4ペアでプリクラを撮りに行った。韓国のプリクラは、ウサギの耳やティアラをつけて撮り、できたシールを係のおじさんに渡すと、さらに光沢のあるシールを貼り、シールを人数分にカットまでしてくれた。その後に入ったコーヒーショップでは、屋台のトッポギを持ち込んで堂々と食べる、韓国の女の子の強さに驚いた。カラオケに行くと日本の歌もたくさん入っていて、いつもの4ペアはノリノリでとても楽しかった。最後に、友達と別れるときの歌を韓国の学生が歌ってくれ、

韓国語はよくわからなかったが、もう明日は日本に帰るんだな…とすごく寂しい気持ちになった。カラオケの後には、2ペアで買い物に行った。全くロゴが違うものや、スペルは本物と同じものなど、ブランド品の偽物を見つけて面白かった。

4日目は、市場やスーパーマーケットに買い物に行き、コチュジャンやプルコギのたれなどをたくさん買った。釜山港に向うバスの中で、前の晩、ミリがお風呂に入っている間に、こっそり書いた手紙とペアで買ったネックレスをプレゼントして別れた。この時は本当に寂しくて、みんなが泣いていた。

この旅行では、韓国という異国の文化や大学、病院などの施設、また看護学生の実習形態の違いなど、さまざまなことを見学、体験を通して学ぶことができた。しかし、この旅行で最も感じることは、ホストの学生やその友達、その家族といった出会うことのできた韓国の人々の温かさだったと思う。これは、ホームステイだったからこそ感じることはできたのだと思う。

9. 晋州保健大学研修旅行感想

看護学専攻4年 矢島 尚子

初めてのホームステイということもあり、少し緊張して晋州へ向かった。最初の学校紹介で晋州保健大学は看護学生が一学年300人もいるということを知ってとても驚いた。一学年300人もいるのに、教員の数が少なく大変なのではないかと思った。しかし、韓国の学生は自分で学ぶという姿勢があり日本の学生と違うと感じた。日本の学生はいかに楽に学校生活を送れるかということを考えているのに…。晋州の看護学生は夜の10時までで大学で勉強していて、私は試験前ですら10時まで学校に残ったことはないのには、違いが明らかだった。日本の学生ももっと向上心をもって生活していかなければいけないと思った。

一日目の夜、ホストの自宅に帰ってからホストの友達と4人でドライブに行った。高速ののってかなり遠いところできれいにライトアップされた橋と海に連れて行ってもらった。韓国の男の人はとても優しく、車のドアを開けてくれたりして感動した。韓国の家庭は夜遅くまで遊んでいても、親はあまり何も言わないようだった。ダウンタウンのお店も11時くらいまでは開いているということで、8時には閉まってしまう長崎とは全然違うなあと思った。

韓国の食べ物辛いものばかりで、ちょっときつくなった。私が辛い辛いと言っていても、韓国の人全然辛くないよと言って笑っていて、すごいなと思った。普通の旅行では、韓国の家庭料理を食べる機会なんてないので、今回家庭に行くことができ本当によかった。また、ホストだけでなくホストの友達ともたくさん遊べたし、地元の人のおいしいというお店にも連れて行ってくれたので色々な経験ができた。韓国の人かなりの量の食事

をするのに、みんなやせていてスタイルがよくてかなりうらやましかった。また、韓国の食事のスタイルと日本のスタイルがかなり違うというのに戸惑った。箸やスプーンを直接テーブルの上に置くのは最後まで抵抗があったし、取り皿がないのも食べにくかった。それに、椅子に座っていないときは女の人でもあぐらをかいたり、片膝立てていたので文化の違いは大きいなあと思ったし、違う国の文化を学ぶことはとても大切だと感じた。

ホストの自宅では、チマチョゴリを着せてもらえていい体験が出来た。初日は緊張して家族の人との関わりは少なかったけれど、だんだん慣れてきて最後の夜はみんなテレビを見ながらビールを飲んで楽しんだ。韓国語で話している内容が何となくニュアンス的に分かってきて一緒に笑うこともできてとても楽しかった。自分にもっと英語力があれば、もっと楽しくホストと会話出来たのには、これから勉強したいと強く思った。

この3泊4日という期間でたくさんの事を経験することができて本当に良かったと思うので、これから交流がもっと盛んになってたくさんの人がこのような体験が出来ればいいと感じた。企画してくださった先生方や受け入れてくれたホストの皆さんに本当に感謝しています。

10. 晋州保健大学訪問記録

看護学専攻4年 山口 美咲

私は3年前に韓国の学生をホームステイで受け入れ、それが自分にとってよい経験になったと思ったので、今回もこの交流事業に参加しました。今回はホストの子との交流の時間が長く、以前にも増して私は英語が話せなくなっていたので、自分のコミュニケーション能力・英語力のなさについて、前回以上に感じさせられてしまいました。自分の思ったことや感じたことを相手に伝えられないというのは、とてもがゆいものです。しかし、韓国語でなんというのだろう、英語ではなんというのだろう、どう表現すれば伝わるだろう…と一生懸命考えながら言ったことが相手に伝わるととても嬉しかったです。英語や韓国語を学ぼう・覚えようという意欲がすごくわいてきました。もう少しスムーズにコミュニケーションがとれていれば、もっと仲良くなれたのではないかと考えると、残念でなりません。コミュニケーションがスムーズにとれなくても、ホストの子とはよい関係が作れたし、楽しい思い出もいっぱいできましたが、コミュニケーションはお互いを知るうえでもとても重要なものだったと思います。

滞在中多くの場所を案内していただきました。観光でいったところはどれも日本に関係するところばかりで、韓国と日本の昔からのつながりというのを感じました。しかし、それらの観光地はどれも日本が韓国に侵略したことに関連する場所で、日本人として複雑な気持ちになりました。日本は現在韓流ブームで韓国への関心が高まっていますが、このような私たち日本の祖先が韓国の人に

行ったことを、きちんと知っている人は多くはありません。こうした歴史を知ることでも日韓交流を進めていく上でこれからは重要だと思いました。また韓国に行く前は反日デモがニュースで多く取り上げられ、韓国に行ったら私たちは歓迎されるかどうか心配しました。しかし滞在中日本人だといって嫌がられることは一度もなく、毎日とても楽しく過ごすことができました。日本の歌を日本語で歌うことができる人、日常会話程度なら日本語が話せる人…意外にも多くの韓国の人が日本に興味を持ってきているのだと知りました。韓国は近いけれど、遠い国という気持ちがどこかにありましたが、多くの韓国人と交流して、韓国はみんなパワーがあって日本と近い素敵な国だと感じるようになりました。韓国と日本で文化の違いはあるけれど、言葉など日本と似ているところがたくさんあって、そういうのをみつけるのが楽しかったです。

ホームステイ先のジヨン、そしてジヨンのパパ・ママ 4日間ありがとうございました！！また会える日が来ることを願っています。

11. 韓国を訪問して

看護学専攻4年 山口 祐美

今回は私にとって初めての韓国訪問であった。また、ホームステイも初めてであった。私は韓国語を全く話すことができず、かといって英語をうまく話せるわけでもなかったため、韓国に行く前はうまくコミュニケーションを図れるか、韓国の学生やその家族になじむことができるかなど、たくさんの不安を抱いていた。しかし、実際に現地の学生と接してみるととても親しみやすく、心配していた言葉も身振り手振りで何とかかなり、時間がたつにつれてお互い冗談を言い合って笑うこともできるようになった。ただひとつ、医療の専門用語を英語で言うことができたなら、もっと会話が深まったのではないかと感じた。

韓国と日本の歴史の中には、日本の侵略や倭寇の問題など、韓国人にとって日本は敵対心を抱く部分もあるのが事実だろう。実際に訪問した場所には日本の侵略の傷跡がいたるところに残されていた。それでも韓国人々は日本人に対して丁寧に接してくれた。

旅日2日目の朝には韓国の学生の祖母の誕生日を祝いに行き、そこで学生の祖母、伯父、伯母に会うことができた。彼らも日本人である私を歓迎してくれて、別れの時にはまた韓国に来なさいと言ってくれた。私はとても嬉しかったと同時に、歴史的背景を越えて韓国人は日本人を歓迎していることを感じた。私はその歓迎にこたえるためにも、日本と韓国の歴史について再度学習し、次回はそれを理解したうえで韓国を訪問する機会があったらいいと感じた。

韓国の学生は朝8時から夜10時まで学校で勉強しているということであった。その勉強時間にも驚いたが、そ

の他にも、韓国の学生は自分の将来のことを真剣に考え、厳しい環境の中で看護の勉強を続けているのだと感じた。その姿を見て、私たち日本の学生の甘さを実感した。私はどこかで「どうにかなるさ」という考えを持ち、妥協する場面も多い。実際にそれでどうにかなってきたのも事実である。これは日本人全体にも言えることだと思う。これではこれからの国際社会を生きていくうえで、海外の国々にどんどん先を越されることになるのは目に見えていると感じた。これから就職先を見つけ、社会に出て行く若者のひとりとして、今回の韓国訪問で垣間見た韓国学生のひたむきさと積極性をぜひ見習いたいと思う。

今回の訪問は17時前後に解散してから完全に自由時間であったので、ホームステイ先の学生の友達や兄弟と一緒に過ごす時間が多く持てた。中でも学校の友達の中に私が一人入ってカラオケやショッピング、焼肉、居酒屋…など、多くの場所に遊びに行くことができたことは、ツアーでは経験できないことだったのでとてもよかった。遊んでいる間はとても国の異なる学生とは思えず、心から楽しむことができた。食事もおいしく食べることができた。

楽しい思い出ばかりの韓国旅行であったが、これを機会に韓国の学生との交流を続けていき、将来韓国を訪れたときに再会できたら最高だと思う。

12. 晋州保健大学訪問を終えて

看護学専攻2年 井上 美和

私は、韓国から日本に帰国してきて約2週間経った今でも、今回の貴重な体験をさせて頂いたことへの感謝の気持ちでいっぱいである。私たちは、教官3名、学生14名（四年11名、二年3名）、計17名で、韓国の晋州保健大学を訪問した。晋州保健大学に到着するまでは、靖国神社参拝問題や第2次世界大戦の日本の侵略などでの反日感情を少し恐れていたが、晋州保健大学の教官や学生は、反日感情どころか、私たちを熱烈歓迎してくれた。私は、その韓国の方の優しさにとっても嬉しくなった。歓迎セレモニーでは、私たちのお世話をしてくれる学生のホストが紹介された。私もとてもかたくなな韓国語で簡単な自己紹介をした。ホスト達は、皆看護学生であったので、韓国の看護教育と日本の看護教育について私が一年半で学んだ中で、話せるところまで話したいと意気込んだ。セレモニー後、大学の見学をした。学長自らが学校施設の案内をしてくださった。韓国では、保健の中に、美容も位置づけられているので、美容また、歯科技工士のコースもこの大学にはあるようであった。大学見学をしている時、美容などの施設はとても素晴らしいが、看護関連の施設が少ないなという感想をもった。また1学年約300人もいる看護学生に教える教官の数は約30名という事実にも驚かされた。二日目の病院訪問でも、驚くことは多かった。韓国では、美容の国といわれるが、健康診断をする病棟の美しさに驚いた。まるでホテルのよ

うで、看護師のユニフォームも病院と思えないお洒落なものであった。この点は、日本も取り入れていかなければならないのではないかと思った。また、晋州保健大学の二年生が、実習をしていたが、私たちよりも伸び伸びと実習をできているように見えた。また、ICUでの実習も実施されていた。しかし、他の病棟にいくと、患者に対する看護師の割合が少ないという事実を知った。また、救急外来での病棟のプライバシーのなさに驚いた。またホストとの会話のなかで、夜の11時まで学校で勉強をしていると言う事実を聞いて自分自身の勉強不足を痛感した。私は、医療について国境を越えてお互いに学びあっていかなければならない根拠を実感した。

ホストの学生達とも自由時間に多くの事を語り、多く遊んだ。彼女達そして彼女達の家族は、国境を越えてきた私たちにとっても親切にしてくれた。日本に帰りたくないと思ったほどである。ぜひ今度は、彼女達に長崎を訪ねてほしいと思った。今回できた友情をこれからも大切にしていけたらと思う。私は、この訪問で更に韓国が好きになった。この訪問を計画された方々に感謝したい。

13. 晋州保健大学訪問の感想文

看護学専攻2年 田中 友紀

私は今まで海外に行ったことがなく、最初は韓国に行くということだけでこの晋州保健大学の訪問に応募した。ホームステイだということを聞いて韓国語はもちろんわからないし、英語にも自信がなかったのでとても不安になった。

初日、大学見学のときは通訳の人がいらっしやっしたし、先生方や先輩方、友達もいたので楽しく見学できた。しかし、その後自由時間になると、自分たちだけになってしまい、何をしゃべっても通じないのできつくて、あと3日もあるのかと思うと気が重くなった。しかし、2日目からは英語で話すことにも慣れ、ジェスチャーでコミュニケーションもとれるようになったし、韓国の学生がとてもよくしてくれたのでとても楽しかった。

4日間でいろいろなところを訪問したが、一番印象に残ったのがやはり病院見学だった。健康診断を受けるところはホテルみたいでとても病院だとは思えないくらいきれいなところで、サービスも徹底されていることにとっても感激した。一般の病棟でも、またICUでも医療者が指輪、ネックレス、ピアスをしてケアをしていることにとっても驚いた。日本とそれほど離れてない韓国でもこんなに考え方が違うのかと本当に驚きっぱなしの訪問だった。

行く前は期待と不安が入り混じったような気持ちだったが、食べ物もおいしかったし、普段では経験できない外国の学生と話したり、大学や病院などいろいろなところを見学でき、とてもいい経験ができた。今度は晋州大学の学生が、私たちが卒業する前にぜひ日本に来てほしいと思う。

14. 韓国体験記・感想

看護学専攻2年 成沢 優子

今回の韓国での晋州大学への訪問・ホームステイ・観光は私にとって本当に貴重な体験になり、またかけがえない思い出になった。3泊4日というとても短い時間ではあったが、たくさんのことを感じさせ、考えさせてくれるすごくいい機会になった。私はこの訪問が初めての海外・ホームステイであったのでなおさらだった。

韓国に行く前は、多少なり不安があったが、今振り返ってみると本当にいい時間を過ごすことができたと思う。それは何よりも、ホームステイを受け入れてくれたパートナーがいろいろと気を使ってくれ優しく、また楽しませてくれたからだと思う。最近反日問題など新聞でも取り上げられているが、私が韓国で出会った人はどの人も私に親切にしてくれ、とても嬉しかった。あんまり言葉が通じないこともあったが、お互いに一生懸命その思いを伝えようとすれば、ちゃんと気持ちを分かってもらえるのだと身をもって感じる事ができた。

病院の訪問に対しては、長期の実習を経験していない私には韓国との比較をあんまりすることができなかったが、健康診断をするためのホテルのようなフロアがあったことなどはとても印象に残った。日本もこのようなよい点は取り入れていくようにしていくのではないかと思った。これから、私も実習にでて韓国の学生といろいろ看護について語ることができればと思う。

ホームステイに関しては、生まれて初めての体験であったのでとてもドキドキだった。韓国の家庭での食事、部屋のつくりや様子はどのようにになっているのかなど興味津々だった。私のパートナーの家族に1人でのホームステイは不安ではないか聞かれたが、私は不安どころかとても楽しく毎日家を過ごすごうことができた。また、バスタブの様子や、台所にキムチ専用の冷蔵庫があったことなど、ホームステイをしないと分からないことをたくさん見ることができたことがすごくよかった。

全体を通して、本当に貴重な体験ができたと思っているので、これからまたこのような機会があればぜひ参加したいと感じた。また、韓国のパートナーとこれからも連絡を取ったりしていきたいので、韓国語・英語の勉強にも励みたいと思った。

ま と め

今回の訪韓中、学生たちはホストファミリーに温かく迎えられた。韓国の家庭料理をごちそうになり、チマチョゴリを着せてもらい、習慣や礼儀を教えてもらったりして、韓国の文化と歴史に触れることが出来た。ホスト学生が本学の学生にいつも寄り添っている様子はほほえましかった。教職員の方も学生は勿論、私たち教員に対しても細やかな心配りをいただいた。

釜山から博多に向かうビートルの船内で、学生たちは

楽しかった、楽しかったと連発し、長崎に帰ったら、是非、打ち上げをしようということになった。その場で日時が決まり、帰国後の打ち上げ会にはほぼ全員が集合。覚えてきた片言の韓国語をいれながら、変な日本語で訪韓中の出来事を楽しく語り合った。学生の感動と感謝の気持ちを伝えるため、ここに掲載した学生の感想文と写真を編集して、韓国に送った。

謝 辞

お世話になった韓国晋州保健大学の教職員ならびに学生とご家族の皆様にご心よりお礼申し上げます。

文 献

- 1) Suh MS, Miyashita H, Ishihara K : A comparative study on the stomal management status of colostomy patients and their quality of life in Korea and Japan. Research Bulletin Chinju College of Nursing & Health 22(2) : 115-136, 1999
- 2) Park BJ, Oishi K, Araki M, Kato N, Kinebuchi E, Miyasato K : A comparative study of Korean and Japanese customs related to pregnancy. Bull Sch Allied Med Sci Nagasaki Univ 13 : 13-17, 1999
- 3) Oishi K, Park BJ, Araki M, Kato N, Kinebuchi E, Miyasato K : A comparative study of Korean and Japanese customs related to child birth and child rearing. Bull Sch Allied Med Sci Nagasaki Univ 13 : 19-25, 1999
- 4) 浦田秀子, 田代隆良, 松本麻里, 志水友加, 福山由美子, 金鳳壬, 梁炳善 : 日韓の2大学病院における看護婦の院内感染防止対策実践状況. 環境感染 15(4) : 338-344, 2000
- 5) 田代隆良, 浦田秀子, 松本麻里, 志水友加, 福山由美子, 松田淳一, 宮崎義継, 平湯洋一, 金鳳壬, 梁炳善 : 日韓の2大学病院における環境および臨床検体からのMRSA分離状況. 環境感染 16(4) : 313-317, 2001
- 6) 松本正, 宮下弘子 : 韓国晋州保健大学との学术交流報告 : 韓国医学生のホームステイ. 長崎大学医学部保健学科紀要 16(2) : 127-139, 2003
- 7) 出田順子 : 日韓看護大学生の死生観の比較. 平成17年度卒業研究論文集 : 21-24, 2006
- 8) 田代隆良, 出田順子, 永田奏, 安藤悦子, 崔鎔赫, 白明和 : 日韓看護学生の死生観の比較. 保健学研究 19(1) : 49-54, 2006

Academic Cooperation Report between Nagasaki University and Jinju Health College in 2005

Takayoshi TASHIRO¹, Hiroko HANADA¹, Ayumi NOMURA¹

1 Department of Nursing, Graduate School of Biochemical Sciences, Nagasaki University